

# 甕 棺 (かめかん)

大野城市教育委員会



甕棺が見つかった様子

## 1. 甕棺とは

弥生時代（約2400年～1800年前）の北部九州では、死者を大きな土器の中におさめ、埋葬する風習がありました。これに使われた大きな土器を「甕棺」と呼びます。

上の写真は、遺跡から甕棺が発見された様子です。2つの大きな土器の口を合わせて、その継ぎ目を粘土で密封している事がわかります。この土器の大きさは約80cmですので、2つ合わせて160cm、ちょうど人間の身長と同じくらいです。甕棺の中には、1つで150cm近い大きさの土器もあり、2000年前の技術の高さには驚かされます。

## 2. 甕棺の誕生と形のいろいろ

ところで、甕棺はいつから作られるようになったのでしょうか。

今から約2400年前、朝鮮半島から稲作や金属器など新しい文化が伝わり、弥生時代がはじまりました。甕棺も弥生時代の開始とともに誕生しましたが、時間がたつにつれ、形や大きさを次々に変化させていきました。

裏のページの図1を見てください。

いろいろな形、大きさの甕棺が並んでいます。左から右に向かって時代が新しくなるのですが、どこが変わっていくかわかるでしょうか。

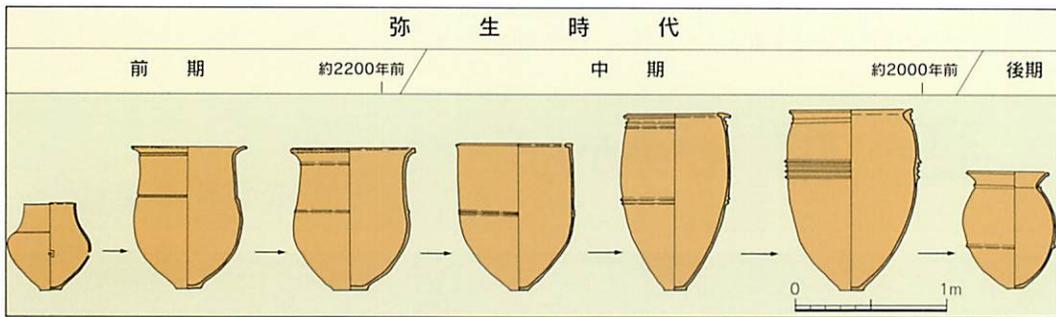


図1 甕棺の移りかわり (縮尺 1/50)

考古学の専門家は、こうした形の違いで、甕棺の作られた年代がわかるのです。

### 3. 甕棺の広がり と 市内の遺跡

こうした甕棺は、日本中どこでもみつかるわけではありません。北部九州とくに福岡平野や佐賀平野といった地域でたくさん見つかっており、計20000基を超えるといわれています。

大野城市内でも図2のように多くの遺跡で甕棺が発見されています。中でも、中・寺尾遺跡や森園遺跡、石勺遺跡ではたくさん甕棺が見つかっており、特に注目される遺跡といえます。

### 4. 甕棺から何がわかる？

甕棺を発掘すると、石剣や銅剣といった武器、勾玉や管玉や貝輪といった装飾品や銅鏡、さらに人骨が出土することもあります。

当時、武器や装飾品を伴って葬られる人には地位や権力があつたと考えられていますし、その品物を調べれば、弥生時代の技術力や交易の様子を知ることができます。また人骨を調べれば、性別や死亡年齢、体系や顔つきまでがわかり、弥生人の姿が浮かんでくるのです。

このように甕棺は、弥生時代の生活の様子を現代に伝える「タイムカプセル」といえるのです。



図2 甕棺のみつかった主な遺跡



発掘調査の様子



甕棺からみつかった管玉